

第2回文化が活きる京都推進審議会 開催概要

1 日 時 令和7年6月10日（火）16時から17時

2 開催形式 オンライン会議

3 出席者 審議会委員16名出席（欠席4名）

4 議事要旨

- ・金田会長が議事進行
- ・報告事項について事務局から説明
- ・審議事項について意見交換
文化が活きる京都の推進に関する条例に基づく基本的な指針の最終案について

5 主な意見等

- ・様々なプロジェクトの実施に当たっては、どこが主体となるのか、また、十分な能力があるのかが気になっている。
→事務局）・重点プロジェクトは、「6 推進体制」に記載のとおり、プロジェクトに適した外部有識者と共創しながら、京都府の関係部局が進めていく。
- ・「90%」という数値目標がいくつか設定されているが、やや高めで挑戦的な目標であるように感じられる。
→事務局）・数値目標は、期間を定めず、長期的な高めの目標として設定している。
- ・京都府には全国から学生が集まり、卒業後は全国や海外に広がっていく。大学生になると、自ら選択して文化体験をするため、受け取るものが大きく、発信力も高いことから、京都府の魅力を全国や海外に発信していく役割を担っていると思う。こうした学生層を視野に入れることが必要だと考える。
- ・重点プロジェクト「文化によるウェルビーイング向上プロジェクト」において、「福祉施設などで芸術を学ぶ大学生」とあるが、現時点でそのような大学生はほとんどみられず、京都府では開拓が必要な段階である。どのような経緯で記載されたのかを確認し、実情に即した形に修正できればと考える。
→事務局）・「福祉施設などで」の部分は、芸術を学ぶ大学生と福祉施設などの利用者がともに活動する場を想定している。意図が明確になるよう、文言を修正する。
- ・最近、海外の若者が漫画を通じて日本の歴史や文化を深く理解している様子を見て、その影響力の大きさに驚いた。漫画が文化をつなぐ重要な手段になっていると実感した。今後は、漫画の文化的価値にもっと注目していくべきだと思う。
- ・重点プロジェクト「文化によるウェルビーイング向上プロジェクト」において、他者からの評価を気にしすぎているように感じた。

→事務局)・ウェルビーイング向上効果の「見える化」は、文化体験が心身の向上に寄与することを伝える手段として重要であると考えており、文化の価値を感じにくい層の関与を促すきっかけとすることを意図している。

- ・総論から各論に至るまで、審議を通じて、全体の方向性が明確になってきたことを高く評価している。
- ・カタカナ語が多く使われていることについては、なるべく日本語に置き換えたほうが、より多くの人に伝わりやすくなるのではないかと考える。
- ・重点プロジェクトに「食」が含まれていることを非常にありがたく思っており、今後の展開に大きな期待を寄せている。
- ・食文化を文章化することで文化としての価値が再認識されるなど、多様な視点からの評価が新たな創造を生み出すクロスオーバーが大切だと思う。
- ・今後は、京都府産の食材を府民が食べるという自給率を高め、府民の食に対する QOL 向上を目指す活動を進めていきたいと考えている。
- ・非常に幅広いプロジェクトであり、気持ちが豊かになるような内容だと感じている。特に、文化を内面に取り入れていくことで、人としての成長や醸成が図られるという点に共感している。
- ・ものづくりに関わる立場から、重点プロジェクト「『KOGEI』ネクスト・ステージプロジェクト」に強く関心を持っており、高い技術を持つ職人たちの価値を再認識し、発信できるような場が必要だと考えている。
- ・文化をどのように未来へつないでいくかが丁寧にまとめられており、非常に分かりやすい内容であると感じている。
- ・重点プロジェクト「文化が活きる『継往開来』プロジェクト」の名称については、意味がすぐに理解できず、少し引っかかりを覚えた。取組例が身近でわかりやすいものであるため、もう少し平易な表現にした方が、より多くの人に伝わりやすくなるのではないと思う。
→事務局)・「継往開来」は、温故知新と類似の意味を持つが、発展させながら未来を切り開くという前向きなニュアンスがあるため採用している。
- ・重点プロジェクト「文化によるウェルビーイング向上プロジェクト」に「技を掛け合わせる」という京都の強みを活用している点に感動した。文化は一方的に与えるものではなく、文化に縁遠い方とともに活動することで、新たな価値が生まれるという意味だと解釈した。掛け算は順序を入れ替えても成り立つように、相互作用によって価値が創造されるという考え方に深く共感した。
- ・今後、重点プロジェクトの取組例の事業化に向けては、どのように進めていくのかが気になっており、また、指針に基づき具体的に進めていくことを、府内だけでなく府外にも広く発信し

ていくことが重要であるとする。

- 事務局) ・重点プロジェクトの取組例は、可能なものから順次進めていく方針である。早期に事業化が可能なものは、来年度予算の要求に向けた準備を進めていく。
- ・府内外への発信については、冊子等を作成して広く周知する予定である。

- ・どの重点プロジェクトから着手していくのか、また優先順位についてどのような考えがあるのかが気になっており、戦略的な進め方に注目している。

→事務局) ・各重点プロジェクトの取組例の上にあるものほど具体性が高い。分野に偏りが出ないように配慮しつつ、複数の関係部局が関わる事業も含めて丁寧に進めていきたいと考えている。

- ・海外からの観光客が日本料理に強い関心を持っており、府内には料理教室などの体験できる場所が多い。どの国でも食文化は重要であるが、特に日本は国際的に注目されている。
- ・現在の観光は、消費中心になっており、文化が本来の意味を失ってしまうのではないかと懸念している。文化を提供する側が需要に応えるために、文化を切り売りしているような状況があると感じており、本質が損なわれる可能性があると考えている。
- ・文化振興と同時に、観光客を含め適切な教育や学びの場を設けることが必要であると考えている。